届け 世界の果てまでも

令和５年１月３１日　Ｎｏ．６２　文責　校長　飯久保一男

これでいいのだ　… 選択の責任

バカボンのパパの口ぐせは「これでいいのだ」です。アニメの一話がバカボンのパパの「これでいいのだ」のセリフで終わることがよくあります。バカボンのパパがとんでもない「選択」をして，ハチャメチャな結果になることも多くありますが，ギャグアニメでありながらも「それも“あり”だよなぁ」という結果も多いと感じます。

人は，実に１日に９,０００回もの「選択」をするのだそうです。

・朝起きるとき，もう起きようか，あと５分寝られるし…

・服を着るとき，何を着ようか，今日は寒いからなぁ…

・ズボンを履くとき，どちらの足から履くか…

ズボンの右左の履く順などは，習慣になれば，脳を使わなくても勝手に体が動くようになりますので，選択に脳を使う必要はなくなります。誰にもいつものルーティンがあると思いますが，ひょんな拍子にいつもと違う順にやってしまって，変な感じが残ることがありませんか？

「iPhone」や「iPad」を世に送り出したスティーブ・ジョブズは，上の写真のようにいつも同じ服を着ていました。私などよりはるかに難しい選択を毎日たくさんしていたスティーブ・ジョブズですので，選択による脳の疲れを減らすため，同じ服を何着も持っていて，服の選択に脳を使わないようにした工夫のようです。これは極端な例ですが，そうはいっても，１日に９,０００回も様々な選択をしていると脳は疲れます。脳を疲れさせないためには，選択の回数を減らすことが必要です。

「友だちとＳＮＳもしたいし，スマホでゲームもやりたいし，マンガも読みたいし，テレビも見たい。
土日には遊びの予定を入れたい。でも，勉強もしてレベルの高い学校に入りたい。」

これらを全てやってのける人がいるのかもしれませんが，これで，レベルの高い学校への入学は至難の業です。削ることのできる内容がありそうです。

また，いい選択をするためには，選択肢が多いほうがたくさんのものの中から選べていいように思いますが，そうでもないようです。アメリカのコロンビア大学のアイエンガー教授が次のような実験をしました。

高級品をたくさん置いていることが自慢のスーパーマーケットの方針は
「豊富な選択肢は売り上げを伸ばす」
だった。その方針が本当に売り上げを伸ばすのかを検証した。

【実験】　Ａ　２４種類のジャムを売り場に並べた。
　　Ｂ　６種類のジャムを売り場に並べた。
　　どちらが売り上げが伸びるかを実験した。

【結果】　Ａの売り上げは，Ｂの売り上げの１０分の１にしかならなかった。

選択肢をたくさん見せると，得した気分になるようです。しかし，同時に，選択する難しさを感じてしまい，選択できないことにつながってしまうようです。選択したとしても，満足度は低くなるそうです。

私たち教職員は，子どもたちに様々なアドバイスをします。算数の授業で計算問題をやったときに

「間違えた計算問題は，家に帰ってもう一度やってみるといい。家でもできたら合格だよ。
今は，分かったつもりでも時間が経ってからやってみると，また迷うこともあるかも…。
家でもう一度やってみることはオススメだよ。」

と話したとき，それを＜やる＞＜やらない＞の選択の権限は，子どもにあります。やってみることで，有効な方法だと感じる子が多くいてくれると思いたいのですが，学校で一度やったことだから必要ないとやらない選択をする子ども，面倒くさいからやらないという選択をする子どももいると思います。

結局，**自分の行動は自分が選択する**のです。親や教師をはじめ，他の人ができることは，こうするといいよという情報を与えることなのです。

人生には，多くの選択があります。日常では簡単な選択を繰り返します。朝，何を着るかの選択に始まり，昼，何を食べようか（ラーメンを選択したら，何味にするか，大盛にするか，トッピングは…とさらに選択が続きます）夜，もう寝るかどうしようか…。そして，進学，就職，結婚などの人生の大きな選択もあります。

大事なことは，いい選択であったとしても悪い選択であったとしても「選んだのは自分」と，自分の責任として考えられるかどうかということです。「選んだのは自分ではない」「親に言われたから」などと，責任逃れをしていると，文句，愚痴，不平・不満ばかりの日々になっていきそうです。

◆◆◆◆◆◆◆　令和２年度校長通信 No.１６「自立への第一歩」の一部再掲です。

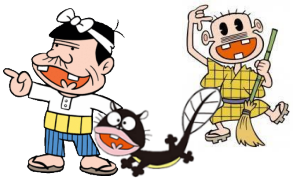
子どもは，いつから自分の判断で自分の進むべき道を決めるのでしょうか。
子どもは，大人として扱えば，だんだん大人に成長していくものです。しかし，周りの大人が子ども扱いをしていたらいつまでも子どものままでいるものです。人はラクなほうに流されます。大人になるよりも子どもでいるほうがラクなのです。その甘えを親が引き受け一つ一つのことに親が手を出し，口を出ししていると，子どもはいつまでも自分で判断ができないままです。これでは自立につながりません。

子どもの成長の途中で，手や口を出したいときに，じっと我慢をすべき時期があります。しかし，いきなりそれをやるのは無理があります。それまで全部手を出し，口を出していたのを急に「自分のことだから自分でやりなさい」とされても子どもは困るだけです。小さいうちから「自分のことは自分で決めさせる」必要があるのです。何でも親が決めて，自分で選ぶ力を親が奪ってしまう…，そのツケはいつか回ってきます。

◆◆◆◆◆◆◆　令和３年度校長通信 No.２７「子どもとの接し方②」の一部再掲です。

子どもは成長とともに，自分で判断することが多くなります。小さいころから自分でいろいろなことを選んだり決めたりしてきた子どもには，成功したときの充実感，失敗したときの反省が積み重なります。そういった経験を積み重ねることで，進学・就職・結婚などの重大な決断ができるようになります。しかし「ヘリコプターペアレント」「カーリングペアレント」は，子どもの代わりに判断をしてしまいます。子どもは，いつまで経っても自分で決断できません。いつか自分で決断しなければならないときに困るのは子どもです。そして，そのツケは，必ず親に回ってきます。

令和２年度からの本通信のバックナンバーは本校ホームページ【学校だより】から見ることができます。◆◆◆◆◆◆◆

自分で判断し，選択したことに「これでいいのだ」と言えることが大切です。自分の選択を後悔することもあります。それでも「自分が選んだのだから」と責任をもつことが大切です。自分で選んでおいて，人のせいにはできません。人生の大きな選択の前に，自分で判断し，自分で選択する経験，選択の失敗の経験をたくさん積んでおく必要があります。

今回の通信はこんな内容でいいのでしょうか。
バカボンのパパなら「これでいいのだ」と言ってくれると思います。
私も今号は「これでいいのだ」と思っています。